

(評価資料5)

評価項目	5	大学・企業等との連携、外部資金の導入、受託研究への対応に関すること
当センターの状況		<p>(1) 大学、企業等との効果的な連携の実施 大学、企業等との効果的な連携について、センターの役割上、企業との連携は少ないが、共同研究機関は大学や他の公設試験研究機関を中心に県内だけでなく、国内外にわたっている。</p> <p>(2) 積極的な競争的資金への応募 当センターでは、試験検査業務が業務全体の約8割を占め、また、競争的資金の応募に係るノウハウも少ないが、平成20年8月に文部省科学研究費補助金の研究機関指定を受け、これまで、他の研究機関の共同研究者として競争的資金への応募を進めてきたところ。なお、平成30年度からは、食品由来感染症に係る研究に分担研究者として参加し、厚生労働科学研究費補助金を獲得している。</p> <p>(3) 受託研究への十分な対応 当センターの役割や業務量を勘案すると、受託研究数を増やしていくことが難しいが、環境エコ調査は平成13年度から現在まで継続していること、平成20年度から開始した韓国との共同研究も継続していること、平成23年度から開始した食品の残留農薬等に係る研究についても現在まで継続しているなど、受託研究への対応が十分にできていると考えている。今後は受託分野を広げていくことが課題と認識している。</p>
評価結果		<p>○ 評価 A：適当（4人）・B：要改善（2人）・C：不適當（0人）</p> <p>○ 評価コメント</p> <p>(1) 大学、企業等との効果的な連携の実施</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 国の関係機関との連携が進められている。</li><li>・ ゲノム研究などさらに大学・企業等との積極的な連携が望まれる。</li><li>・ 国内外を通じた広い連携の実施を評価する。</li><li>・ 分野によっても異なるであろうが地元の岩手大学との共同研究が増える事を期待する。</li></ul> <p>(2) 積極的な競争的資金への応募</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 競争的な資金の確保はさらなる努力を要する。</li><li>・ 県機関として様々な制約のある中、競争的資金に応募し一定の成果を上げている。</li><li>・ 直近で応募数が増えていることは評価出来る。継続的に応募し、獲得するよう努力を願う。</li></ul> <p>(3) 受託研究への十分な対応</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 受託研究には適切に取り組んでいる。</li><li>・ 多大な業務量の中で十分な対応ができている。</li></ul>

<b>センターの対応方針</b>	大学、試験研究機関等との連携を進め、引き続き共同研究に取り組むとともに、競争的資金への応募や受託研究に対応できる人材の育成と研究支援体制の整備を図っていく。
------------------	--